

銅 概 況

大阪市中央区玉造2丁目28番10号
加藤金属興業株式会社

◎ 2019年6月の国内電気銅建値は下記の通りです。

6月	3日	～	670円/Kg
6月	11日	～	680円/Kg
6月	17日	～	670円/Kg
6月	20日	～	680円/kg
6月	26日	～	690円/kg

2019年6月度は平均で676.80円/kgとなり、前月比32.60円/kgの値下がりとなりました。

海外銅価の動き

6月のLME銅相場	6/3～6/27 (安値ドル 5,756.00～6,006.00 高値ドル)
6月のNYC銅相場	6/3～6/27 (安値セント 262.70～273.55 高値セント)

6月度のLME現物は、6/3 \$5,796.00 でスタート。中国は世界銅消費の約半分を占める。米国との貿易摩擦は銅相場だけでなく、世界経済への影響も非常に大きい。そんな中、両国の協議は行われているものの一方向に進展する様子が見られない状況であり、G-20での何がしかの進展も望み薄なのが現状である。銅需要の減速への警戒感は強く、米トランプ大統領の予測困難性が銅相場に影を落としている。

6月半ば、中国の5月の新車販売が過去最大の下げ幅を記録。5月の中国卸売物価指数も上昇率が鈍化するなど、米中摩擦による中国の経済指数の悪化が銅相場の悪材料となったが、米FRBが早期利下げを容認する姿勢を示したことや、チリ・チュキカマタ銅山のスト突入、ザンビアのムフリア銅製錬所を改修のため閉鎖したとの発表などにより、月末にかけて相場は持ち直す形に。6/25には現物で\$6,000を超えた。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2019年1月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,050	23,561	+2.2%	24,237	+2.9%	24,854	+1.9%
全世界地金消費	23,108	23,782	+2.9%	24,413	+2.7%	24,981	+1.8%
全世界需給バランス	-58	-211		-175		-127	

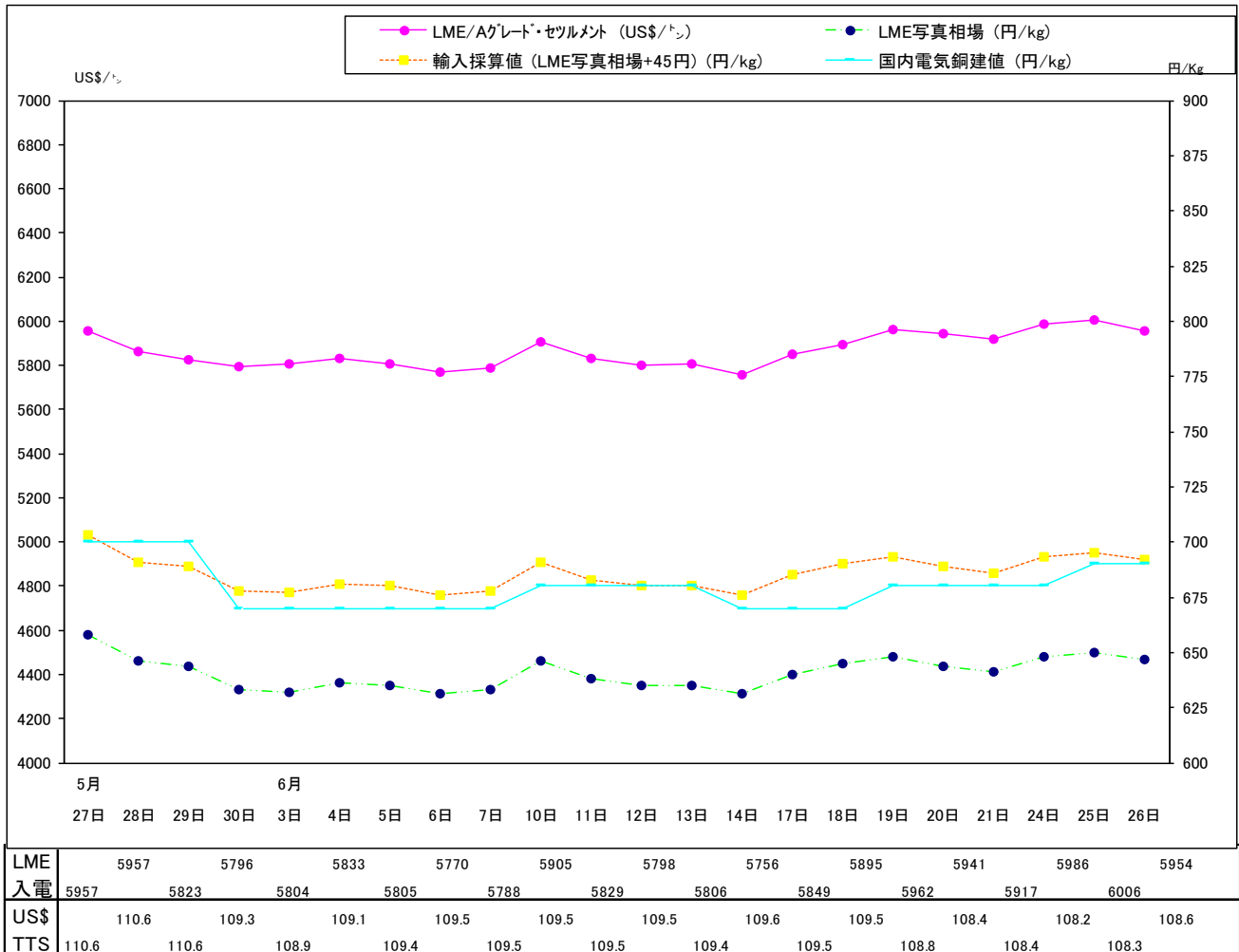
先行き短期見通

国内銅価

6月度の国内建値は3日670円/kgでスタート。相場的には芳しくない状況が続く中、11日680円/kgと上げるも、すぐに670円に戻る動きとなった。6月半ば以降、米中摩擦の進展が見られない中、回避への動きや鉱山のストなどの動きから20日680円/kg、26日690円/kgと連続して値を上げた。

6/27付LME \$5,953.50、27日付為替(TTS) 1USD=106.69円で日本円換算計算値636円/kg。2019年7月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り、680円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 2019年6月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 6月 3日 ~ 340 円/kg
- 6月 6日 ~ 328 円/kg
- 6月 11日 ~ 334 円/kg
- 6月 17日 ~ 331 円/kg

平均332.50円/kg

2019年6月は上記の通りで前月比 20.80円/kgの値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場安を受けて引き下げられたもの。

◎ その他の建値

電気鉛	6月	267.80 円/kg	(前月比+ 2.30 円/kg)
電気錫(相対)	6月	3,500.00 円/kg	(前月比- 50.00 円/kg)
ニッケル(溶解用)	6月市中価格	1,400.00 円/kg	～ 1,450.00 円/kg
銀	5月平均	53,040.00 円/kg	(前月比- 2,460.00 円/kg)
	6月28日	54,350.00 円/kg	
金	5月平均	4,563.74 円/g	(前月比- 81.41 円/g)
	6月28日	4,938.00 円/g	

◎ 伸銅品関係

2019年5月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		4月度実績	5月度速報	前月比	前年5月度実績	前年同月比
銅	板	1,687	1,663	-1.4%	1,414	17.6%
	条	21,328	19,817	-7.1%	21,916	-9.6%
	管	9,275	9,329	0.6%	9,841	-5.2%
	棒	2,198	2,083	-5.2%	2,271	-8.3%
	線	262	231	-11.8%	276	-16.3%
黄銅	板	631	550	-12.8%	572	-3.8%
	条	8,331	8,389	0.7%	8,452	-0.7%
	管	522	451	-13.6%	542	-16.8%
	棒	15,274	14,641	-4.1%	15,909	-8.0%
	線	2,218	2,080	-6.2%	2,845	-26.9%
青銅	板	1,833	1,958	6.8%	2,695	-27.3%
	条					
	棒	216	238	10.2%	245	-2.9%
	線	57	65	14.0%	61	6.6%
洋白・その他	板	371	383	3.2%	460	-16.7%
	条					
	棒	41	39	-4.9%	34	14.7%
	線	456	369	-19.1%	484	-23.8%
合計		64,700	62,286	-3.7%	68,017	-8.4%

5月の伸銅品生産速報は、62,286トンで前月比マイナス2,414トン、前年同月比マイナス8.4%となり、前年同月比が6ヶ月連続でマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の3月分実績及び4月分推定によれば3月分実績は、主力の建設電販や自動車部門等が増加も、機器用電線や電力が不振で、総計は5万8千835tで前年同月比1.0%増と3ヵ月振りに減少した。

この結果、18年度(4～3月実績)の銅電線出荷量は、建設電販と自動車、輸出の3部門が好調に伸長し、総計が69万7千822tで前年度比1.6%増と2年連続で増加した。また、金額ベースでは総計が1兆2千337億5千500万円で同6.1%増と、銅価高もあり、7部門中通信を除く6部門が増加した。一方、4月分の銅電線出荷推定では、好調な建設電販が3万tレベルまで到達するなど電気機械と輸出を除き5部門が増加し、総計は5万9千600tで前年同月比5.2%増と6万tに迫る勢い。

また、3月分の部門別出荷をみると、プラスグループは自動車、建販、輸出の3部門となった。自動車は国内自動車生産台数などに連動し、同0.5%増と僅かに増加。建設電販は2月の勢いを継続し、五輪施設、首都圏再開発プロジェクト、リニア中央新幹線が好調。6ヶ月連続で増進の2・83万tで同5.5%伸長した。輸出はスポット需要が発生し同6.4%増と3ヵ月連続の伸長となった。

一方マイナスグループは通信、電力、電気機械、その他の4部門になった。通信は光化の影響で同4.5%減、電力は電力会社の投資が鈍化し同8.8%減、電気機械は米中摩擦で同11.7%減、その他内需も中国等の伸び悩みで同5.7%減少した。

2019年3月分(実績)・2019年4月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	3月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	4月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	3月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	815	21.8	▼ 4.5	1,000	22.7	11.7	1,294	(7.3)	▼ 16.5
電 力	(2,844)	(30.6)	(36.2)	(1,000)	(▼64.8)	(▼44.7)	2,167	(39.6)	(44.9)
	4,213	10.3	▼ 8.8	3,900	▼ 7.4	3.3	4,978	3.5	▼ 10.1
電 気 機 械	(426)	(6.8)	(▼25.8)				388	(2.9)	(▼32.6)
	11,588	▼ 0.9	▼ 11.7	11,500	▼ 0.8	▼ 7.4	15,852	▼ 0.3	▼ 10.9
自 動 車	(170)	(▼ 6.1)	(61.9)				728	(5.2)	(52.3)
	7,707	3.4	0.5	7,600	▼ 1.4	10.2	39,425	9.2	5.3
建 設・電 販	(150)	(▼43.2)	(500.0)				204	(17.9)	(871.4)
	28,252	2.5	5.5	30,000	6.2	12.0	32,846	4.0	1.2
そ の 他 内 需	(64)	(137.0)	(30.6)	(500)	(▼38.3)	(▼30.7)	73	(114.7)	(30.4)
	4,044	2.1	▼ 5.7	4,300	6.3	0.1	7,403	6.3	4.3
内 需 計	(3,654)	(19.9)	(28.6)	(1,500)	(▼58.9)	(▼40.7)	3,561	(25.9)	(35.5)
	56,619	2.6	▼ 1.3	58,300	3.0	5.9	101,799	5.4	▼ 0.1
輸 出	(345)	(34400.0)	(▼21.8)	(100)	(▼71.0)	-	146	(2820.0)	(▼39.2)
	2,216	45.0	6.4	1,300	▼ 41.3	▼ 18.6	7,633	60.3	▼ 1.2
合 計	(3,999)	(31.2)	(21.8)	(1,600)	(▼60.0)	(▼36.7)	3,707	(30.8)	(29.3)
	58,835	3.8	▼ 1.0	59,600	1.3	5.2	109,432	8.0	▼ 0.2
心 線 販 売	(1,023)	(▼30.8)	(▼18.2)	(600)	(▼41.3)	(▼55.1)	268	(▼34.8)	(▼20.9)
	28,993	1.9	▼ 0.4	29,000	0.0	▼ 3.3	21,116	3.7	▼ 6.3

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2019年3月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,888	7.9	8.4	3,664	4.3	12.0	
巻線	11,032	▼ 0.5	▼ 9.6	11,807	▼ 0.5	▼ 4.7	
機器用電線	3,429	▼ 0.3	▼ 8.0	9,822	1.1	▼ 8.5	
通信用電線・ケーブル	1,336	4.1	▼ 7.1	3,144	8.4	▼ 8.0	
電力用電線・ケーブル	22,116	9.2	1.5	25,180	18.3	▼ 0.3	
被覆線	10,704	▼ 1.4	3.8	15,138	▼ 0.4	0.3	
輸送用電線	6,330	2.7	▼ 0.6	40,677	10.3	3.1	
銅電線計	58,835	3.8	▼ 1.0	109,432	8.0	▼ 0.2	
	通信用電線・ケーブル	76	▼ 1.3	5.6	254	▼ 3.1	2.0
	電力用電線・ケーブル、被覆線	2,932	1.5	18.9	3,465	2.2	19.1
	計	3,013	1.4	18.4	3,749	2.1	17.0
アルミ電線計	3,999	31.2	21.8	3,707	30.8	29.3	
	4,366,946	17.2	▼ 3.6	33,282	45.0	▼ 0.4	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	5,536	13.7	26.0	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

○ 国際アルミニウム地金相場、第1週は、米のメキシコへの追加関税発表、中国商務省の「信頼できない」外国企業・団体・個人のリスト作成方針の示唆など、貿易摩擦の激化を懸念したドル安により\$1,780~\$1,800の狭い範囲での推移でスタート。利上げ期待から株価は高騰するもメタル相場は軟調。IMFが米中貿易摩擦懸念から中国経済成長率見通しを0.1%引き下げるなど減速懸念は強い。第2週、中国5月貿易統計で輸入が前年比8.5%減と約3年ぶりの大幅な減少率を記録。また5月の中国販売台数は前年同月比16.4%の大幅減少となり、内需不振の懸念から相場の重しとなる。米国、イラン間の緊張感の高まりから原油価格が急伸すると連れ高となるも限定的。予定通り対中関税が引き上げられたものの交渉の進捗が良好との観測もあり、影響は限定的。第3週、中国5月鉄工業生産は前年比5%増で2002年以来の低い伸びとなる。また同国の5月アルミ生産量は298万MT（前年比+2.4%）だった。注目されたFOMCでは、金利据え置き。FRBによる年内利引き下げ期待から米国株が堅調に推移する中、ECBも利下げ検討を表明するなど上昇するも\$1,800は維持できない。G20の米中首脳会議に注目。第4週、G20での米中首脳会談を控え、ドル安が相場の下支え。ただし米国とイランの対立による地政学リスクが上値を阻む流れもある。米財務長官が米中通商交渉は9割完了しているとの見解を示したことで、米債利回り上昇、金先物下落など一気にリスクオンに傾いた。\$1,840~1,860の狭い範囲での推移予想であるが、G20の結果次第でどちらにも大きく動く可能性あり。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2019年 6月積 1,849.00~1,859.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2019年 6月積 212.50~213.40 円/kg
- ・NSP 2019年 4月 263.30 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2019年 7月~9月 270.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'19年4月	'19年5月	'18年5月
月生産	*2,264.0	2,351.0	2,346.0
平均日産	*75.5	75.8	75.7

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

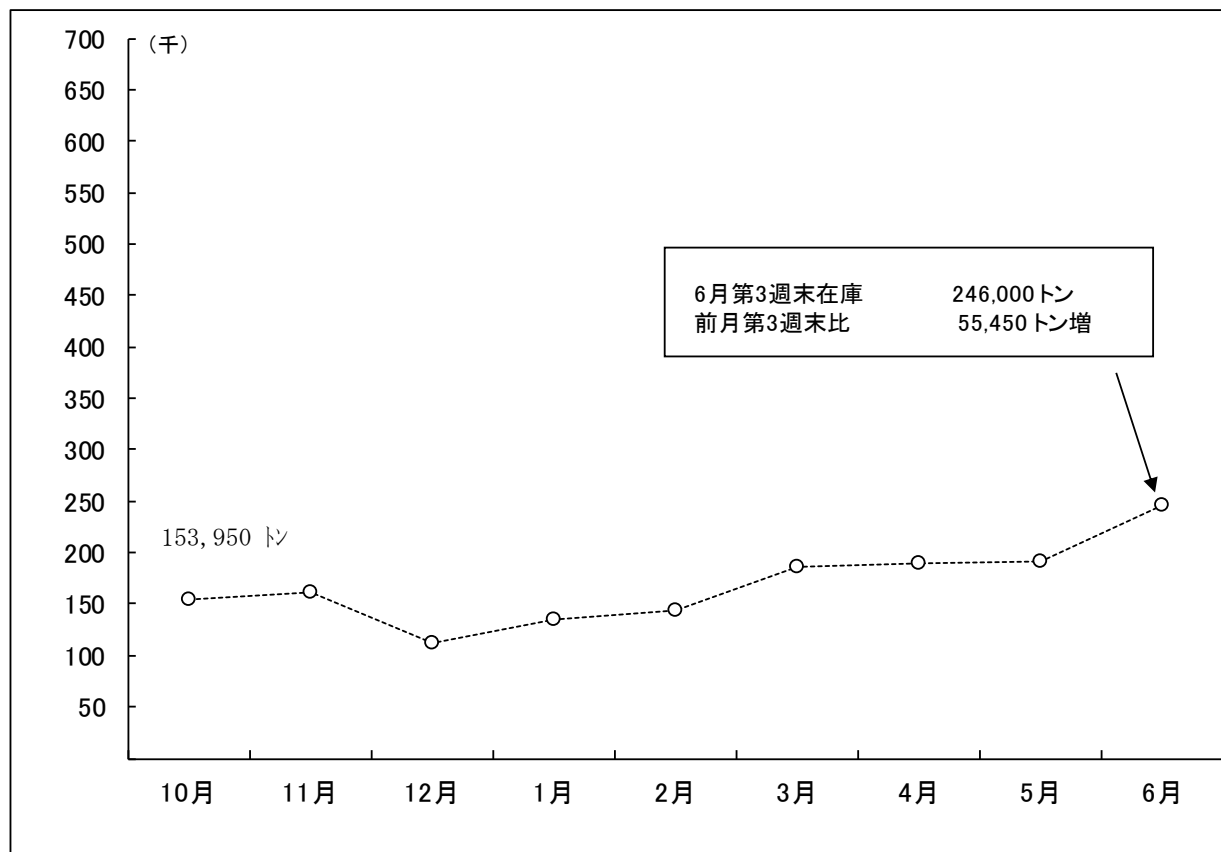
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2019年2月	2019年3月	増減	2018年3月	増減
横浜	155,900	147,400	-8,500	109,200	+38,200
名古屋	148,800	133,500	-15,300	121,100	+12,400
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	319,700	295,900	-23,800	245,300	+50,600

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・19年6月21日現在 30,776 S T 前月比 1,398 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・19年4月末 102,895 トン 前月比 8,402 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・19年4月確報 64,700 トン
 ・19年5月速報 62,286 トン 前月比 95.9 %

◎ 電線出荷実績

・19年5月速報 56,800 トン 前月比 95.3 %

◎ 軽圧品生産実績

・19年 5月	板 類	100,783 トン	
	押 出 類	58,700 トン	
		<hr/>	
		159,483 トン	前月比 95.6 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。